

10 章 街をデザインする

／ほおずき通りの街路灯

10-1 ほおずき祭り

10-2 商店街と街路灯

10-3 街路灯のデザイン

10-4 そして都市のインテリア



9-1 ほおずき祭り

広島駅より5Km北に位置する広島市牛田地区は、自然豊かな環境にある。江戸時代の地図には牛田村とあり、辺り一面田園地帯であった。以前は、牛田大橋の少し下流に架る神田橋がバス通りで、商店街でもあった。高度成長期に牛田大橋～牛田旭（ロータリー）の道路が完成し、バス通り、商店街の中心も移った。幅員約20m・長さ550

mの4車線道路には、街路樹が植えられた。小高い牛田山が迫る緑豊かなこの地区は、現在では、水田区画の名残からか街区が複雑で道路はあまり広くないが、広島駅から比較的近く、校区がよいという理由で住宅地としては人気のあるエリアである。

この牛田地区では、7月第3週の土・日に「牛田ほおずき祭り」が開催される。2日間で6万人訪れるとも言われる盛況な祭りである。その起源は、意外と浅く、東京浅草の浅草寺の「ほおずき市」に習い、1994年～牛田地区の自治会により開催された。「ほおずき市」とは夏の訪れを告げる、元来、下町の夏の風物詩としての祭りである。ほおずき市の発祥である「愛宕神社」(東京都港区)をはじめとして、浅草寺以外にもほおずき市が開かれている。元々は、愛宕神社の千日詣りの縁日で、薬草としてほおずきを売っていたのが始まりだそう。当時、ほおずきを煎じて飲むと、子供のかんの虫、大人の癩(原因が分からない疼痛を伴う内臓疾患)によく効くと言われていて、愛宕神社の千日詣りのお土産として持ち帰るのが通例だったという。

祭り当日には、牛田商店街の中心に位置するほおずき通りは歩行者優先となり、2つのステージを設け、多種多彩なイベントが行われる。市長を初め多くの来賓を迎え、浴衣祭り等の夏祭りを演出していく。出店は、すべて地元の住民によるもので、しながら家族で楽しむ大学祭の様であり、老若男女それぞれの楽しみ方ができる。もちろん、ほおずきも通りを飾り、屋台で販売される。



図1 牛田ほおずき祭り 2016.07

9-2 商店街と街路灯

「ほおずき祭り」の賑わいとは逆に、近年、この商店街においてもシャッター店舗が目立ってきた。話題になる飲食店などはあるものの、食料品以外の日常の買物という車を利用し大型店舗へと流れ、地元での購買に繋がらず、普段は閑散としている。商店街といってもアーケードはなく、街路樹が生い茂る歩道は、いい雰囲気を醸し出しているが、歩く目的が見出せない。

そこで「安心安全な街づくりを」と、牛田商店街振興組合は「まちづくり事業補助金」（経産省）「地域商業自立促進事業補助金」（広島市）等の補助金を活用して活性化を検討した。街路灯を設け明るい街づくりと高齢者に優しい配達システムの確立である。

2014年8月、地元にある本学広島女学院大学生生活デザイン・建築学科に学生と商店街のコラボ企画が持ち持ち込まれた。新たに設ける街路灯を学生の基本デザインで実施しようというものである。学生にとっては、ものづくりのプロセスをリアルに体験できるとてもよい機会である。しかし果たして、インテリア・建築デザインにしか興味のない学生に街路灯のデザインができるのだろうか、不安がよぎる。このようにして、コラボ企画は始まった。

実施案は、コンペティション形式を採用し、進めていくことになった。12名の学生・卒業生のよる応募作品は、1次審査で図面と模型の提出、本学科の建築士課程教員6名による審査により5作品（no.1、no.3、no.4、no.5、no.7）に絞られた。

2次審査では、模型を灯してのプレゼンテーション、牛田商店街振興組合 大野理事長・藤原副理事長・設備設計会社 教誓営業部長・製作会社 木太営業企画部長の4名による審査で3作品（no.1、no.3、no.5）に絞られた。そこからは、3作品の実施の可能性を探るため、電気会社と施工会社と大学の話し合いが進められた。2次審査時に指摘されたデザインの変更、街路灯のプロポーションや色彩などの変更が加えられ、イメージ図が幾度も描き変えられていく。

その間、牛田商店街振興組合総会では、「借金をしてまで街路灯が必要なのか？」という反対意見があり、店主も高齢化が進み、踏み切ることができない状況であると聞いた。全員の合意を目差して、幾度も話し合いを重ねていき、時間を費やした。一方、学生側は、なかなか進展しない状況にやきもきし、あるいはあきらめ、最終選考3作品は全て3年生の応募であったため、卒業するまでに実現するのか？不安を訴え、ネガティブな思いが交錯した。その中、2015年2月遂に総会での合意が得られ、補助金の採択を受けて実施となった。

2015年6月9日～23日、地元住民の声を聞くことを目的として、牛田商店街にあるギャラリー「かうちゃんフォーラム」において展覧会を行い、人気投票を行った。最終

的には、イメージ・製作のしやすさ・予算・住民の意見等を総合的に判断して、最優秀案=実施案（no.1「街の灯火」藤田しほり・山縣・山代案）が決定した。

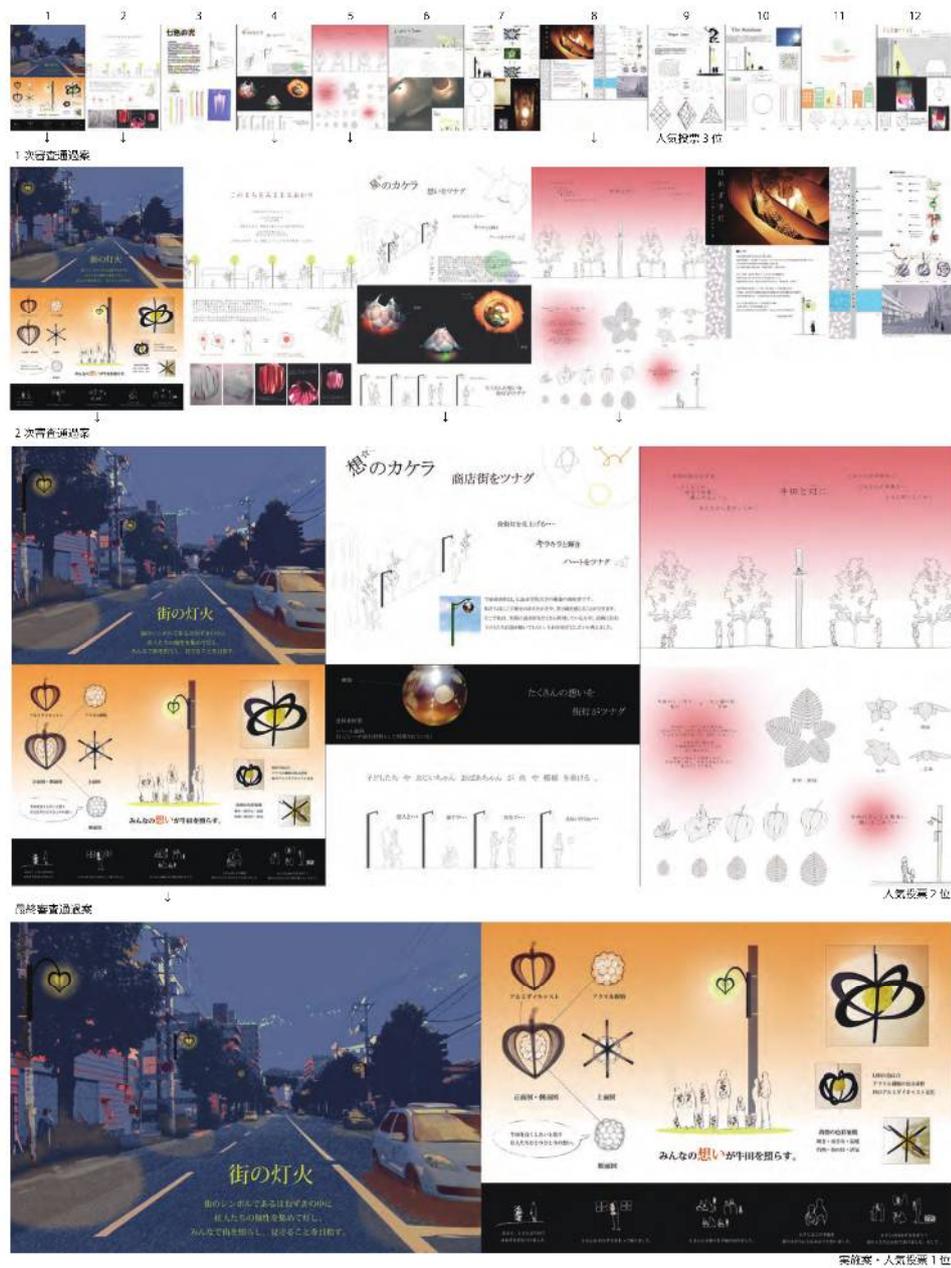


図2 牛田商店街街路灯デザインコンペティション案の絞り込み



図3 牛田商店街街路灯デザインコンペティション完成までの変遷

9-3 街路灯のデザイン

工場で街路灯が製作され、2015年10月～現場工事、ほおずき通り～牛田大橋通りにかけて、歩道に合計24基の街路灯が設置された。そして、2015年11月23日起工式が開催され、完成した。

2016年秋、第15回「ひろしま街づくりデザイン賞 街並み部門賞」（主催・広島市）を受賞した。審査員からは、コンセプトが一貫していると評価された。

牛田商店街振興組合 LED街路灯姿図イメージ

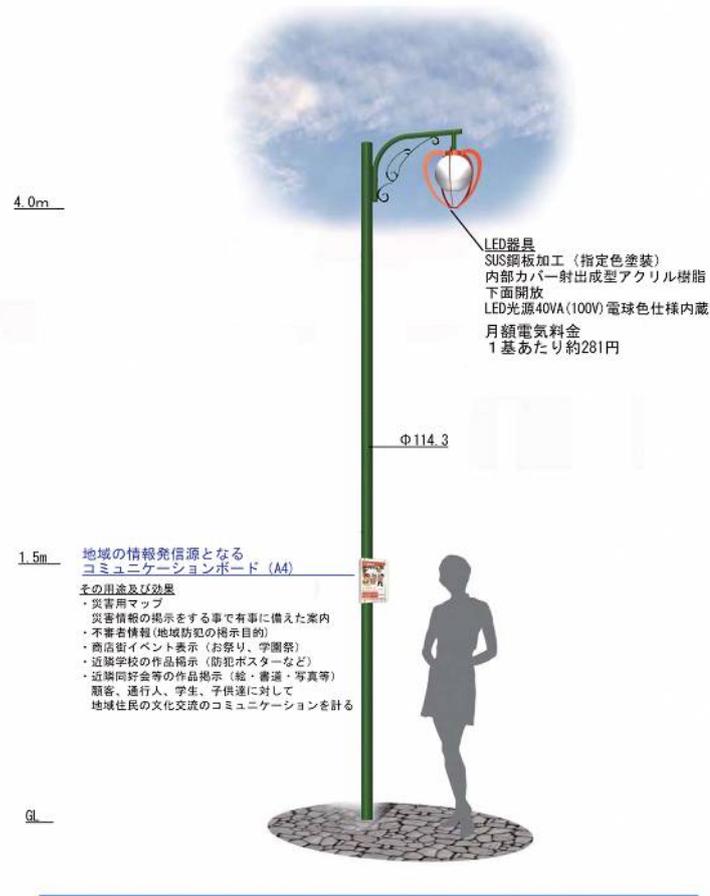


図4 街路灯イメージ図

実施設計：株式会社大成ナグバ

製作：賛光電器株式会社



図7 牛田商店街の様子 2016. 11



図8 牛田ほおずき祭り 2016. 07

9-4 そして都市のインテリア

このようにして完成した街路灯は、緑の街路樹と共に、あたかも昔からそこにあるかのように橙のほおずきの実をぶら下げている。この街路灯には、歩道という都市の外部空間をインテリア化する媒介として、ベンチに続く脇役の座としての可能性を感じる。

従来、街路灯は、照度・安全性・予算・メンテナンス等を考慮するとオリジナルなデザインを施工するには至らない。オリジナルを製作するとなると、その街の歴史などが登場し、大きなロマンがデザインに託されて、地元の住民の意思とはかけ離れた随分大袈裟なモノとなってしまうことが多い。今回、女子大生がデザインすることにより、力の入った「かっこいい」デザインではなく「かわいい」デザインへと自然に導かれていったのである。身近で親しみやすいデザインは、自分のテリトリーとして認知

できる。このようにして「かわいいデザイン」は、公共空間を自分たちの空間として認識させてくる。そして、大切にすきっかけを与えてくれた。

今年の牛田ほおずき祭、この「かわいい」は、夏の生い茂った街路樹に覆われてしまった。少し遠慮がちで、しかし共に祭りの賑わいを盛り立てていた街路灯が、少しいとおしく思えた。

協力

牛田商店街振興組合

株式会社 大成ナグバス

賛光電器株式会社

広島女学院大学人間生活学部生活デザイン・建築学科

「パタン・ランゲージ」から

PL_31 PROMENADE／プロムナード（遊歩道）

4車線道路の歩道と言えは「プロムナード？」となるが、バス路線の終点ロータリーを目前にしているので交通量は少なく、買い物客の一時停車には支障はない。木陰に恵まれた歩行者のための道、商店街に往年の繁忙が続いていればパーキングメーターが設置されていたであろう。そのような安全というよりむしろ静かな歩道に、「ほおずき」をかたどった街路灯が整備された。

アレクザンダーはプロムナードを、サブカルチャーの背骨と表現する。牛田商店街のサブカルチャーが「ほおづき祭り」「ほおづき市」「ほおづきスタンプ」であり、そして今度加わったのが「ほおづき灯」である。